

招待講演

災害コミュニケーション研究領域における
トラスト、安心および教育の課題

岩手県立大学 村山優子

リスクコミュニケーションが、将来の災害の脅威に備えて行う専門家や住民等当事者間の意思疎通であるのに対し、本研究開発では、災害発生直後から必要な当事者間の意思疎通である緊急時のクライシスコミュニケーションを災害コミュニケーションと呼ぶ。災害支援活動には、様々な人々や組織が関わる。関係者同士は、それまで接することのなかった分野の人々である。これらの人々が協調し、限られた時間や労力等の資源の中で、災害支援において日頃と異なる様々な作業を最善を尽くし意志決定を図らなければならない。支援活動では、処理すべき事柄が次々と絶え間なく発生し、被災者も含め、多くの人々が睡眠不足に陥る。体力も気力も限界となる中、見ず知らずの人々との協調や意思決定は不信も生まれやすく、極めて難しい。このような経験から、トラスト(信頼)を如何に築き、維持するかは、重要な課題である。さらに、災害のような緊急事態に備えるためには、そのような事態は想定外のできごとの連続であり、それらに対応するために、我々は安心してはいけない。また、災害コミュニケーションの一環として、次の発災に備える防災教育の設計は重要である。従来型のシナリオ通りの防災訓練は、決まった行動をとるための良い方法かもしれないが、想定外の状況で意思決定できるような教育も必要となろう。本講演では、これら災害コミュニケーション研究領域の課題を述べる。